

緑の風 FAX版



NO. 113 2022年3月11日 JR東労組

JR 東労組ホームページ

東日本大震災から 11 年

近年、激甚化する災害に対して私たちは「何をなすべきか」

2011年3月11日14時46分に発生した東日本大震災から11年が経過しました。

昨年のトンガ海底火山噴火で日本列島に津波が到達するというニュースは、日本中をパニックに陥れました。他にも大雨や大雪など、私たちの想像を上回る自然の猛威、激甚化する災害に対し、改めて「何をなすべきか」が問われています。

東日本大震災では、日頃からの安全を第一に、仲間やお客さまの命を最優先する職場議論が、的確な判断できた要因として明確となりました。そして「仲間の為に何ができるのか」というヒューマニズムの精神が、ボランティア活動や復興支援、そして被災した組合員の生活復興支援・当面の生活保障になるように、お見舞い金の支給や無利子貸し付けを行うことも取り組んできました。

2020年11月には福島・宮城両県の被災地を巡り東日本大震災を振り返り、震災の教訓を語り継ぎ、命を守る取り組みを続けていくことを誓いました。



コロナ禍で、職場活動、職場議論がなかなか出来ない状況下ではありますが、災害はいつ起きるかわかりませんし、待つてはくれません。あらゆることを想定して「何ができるのか」、今こそ職場から議論をすることが出来るのが、JR東労組運動の強みです。

「抵抗とヒューマニズム」の精神で、東日本大震災の教訓を語り継ぎ、激甚化する災害に対して、「何ができるか」を議論しよう！